

おお くま えい いち

大隈栄一

大いに経験を積み、技術を研ぎて

— 製麺機製造から工作機械メーカーへ —



大隈栄一 (1870 ~ 1950)

写真：『大隈栄一翁傳』

大工職で種々の木工機械を考案製作しており、その中で成功していたものにうどんの製麺機がある。大隈は警察官を五年で辞し、義父の志を継いでその製麺機の製造を手がけるようになった。

1897(明治30)年、佐賀製麺機製造合資会社を設立したが、翌年解散し、名古屋にむかった。1898(明治31)年、名古屋に大隈製麺機商会を設立した。

■工作機械メーカー「大隈鐵工所」の基礎を築く

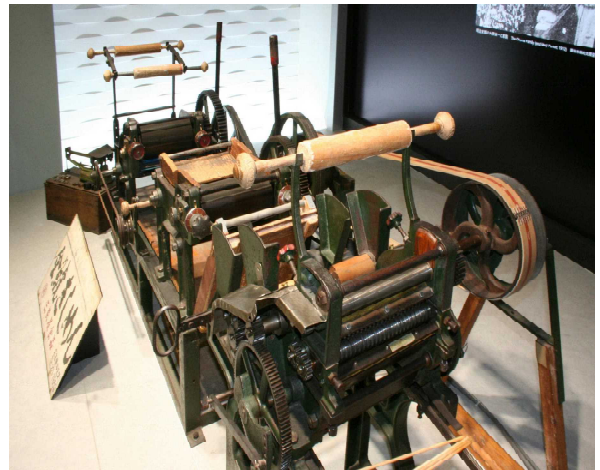
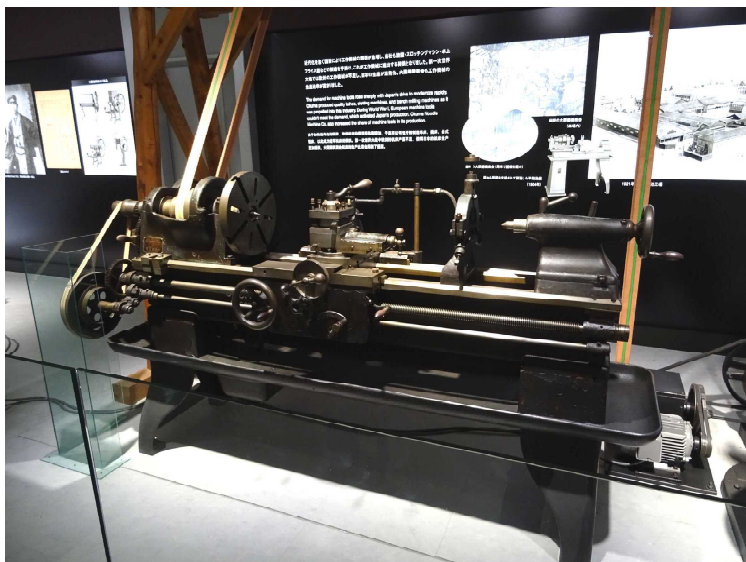
幕末明治期より日本は欧米からさまざまな分野の近代技術を移入し、その国産化、自立化をめざした。その中で機械工業の基礎となる技術、工作機械製造技術は大きく立ち後れていた。

1905(明治38)年、大隈製麺機商会は、陸軍砲兵工廠の注文により、工作機械の製造を始めた。1913(大正2)年、大隈

■名古屋で大隈製麺機商会を設立

小柳栄一(後の大隈栄一)は、1870(明治3)年、肥前国神埼郡目達原村(現在の佐賀県神埼郡吉野ヶ里町)に、小柳与吉を父に、佐賀藩士の娘しなを母として生まれた。四男二女の四男であった。家は、農業と木蠟製造を営む、庄屋の格式をもつ資産家であった。栄一は、家業の衰退で小学校四年の時に退学し、父の郵便局の配達の仕事を手伝うようになった。しかしながら向学心は強く、働きながら近隣の寺々で絵や学問を習っている。特に漢学の素養は高く、折にふれて漢詩を詠んでいる。1889(明治22)年、大隈家を継承し、大隈栄一と名乗るようになった。1890(明治23)年には、福岡県巡査の採用試験を受けて合格、翌年警察官となった。

1892(明治25)年、親類の鶴沢栄吉の長女政子と結婚し、これが人生の大きな転機となった。義父栄吉は

名古屋きしめん造りに使用された大隈式製麺機
写真の機械はオークマ(株)本社メモリアルギャラリーに展示ベストセラーマシンとなったOS形旋盤
オークマ(株)本社メモリアルギャラリーに展示

式自動歯切盤と麵帯巻取機の特許を取得、事業はしだいに工作機械の製造に重心を移した。第一次世界大戦が勃発すると大隈製麺機商会は、多種多数の工作機械を製造している。その中でも1918年から製造をはじめたOS形旋盤は約2000台つくられ、ベストセラーマシンとなり、工作機械メーカーとしての地位を確立した。

1916(大正5)年、名古屋市内の布池町に工場を新築、移転し事業を拡大、大隈鐵工所と改称した。1918(大正7)年に株式会社に改組し、大隈栄一は代表取締役社長となり、今日の屈指の工作機械メーカー、オークマ(株)の基礎を築きあげた。

(石田正治)